

平成 29 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス					
教科目名	複合構造		担当教員	下村 波基	
学年学科	5 年 建築学科		後期	選択	1 単位
学習・教育目標	(D - 2 力学系) 10 0 %		JABEE 基準 1 (1) (d)		
授業の目標と期待される効果： これまでの構造関連科目の知識と工学実験で得られた知識と技術を基礎に、複雑な力学特性を有する鋼構造部とその他材料との合成構造物の許容応力度設計法に基づいて部材断面等の算定法を修得する。 鉄骨が主たる構造における合成構造の設計 SRC 構造の設計			成績評価の方法： 後期： 平常試験 100 点、期末試験 100 点の計 200 点の得点率で評価する。 達成度評価の基準： 外力により部材断面に生じる応力と設計式との関係を解説と演習により修得するが、一級建築士問題と同程度の問題を上記試験で出題し、下記の水準までに達し、総合して 6 割以上の正解率に達していること。 鉄骨が主たる構造における合成構造の設計を 6 割以上の正解率で解答できる SRC 構造の設計を 6 割以上の正解率で解答できる		
授業の進め方とアドバイス： 授業は、教科書と板書を中心に行うので、各自学習ノートを充実させること。 材料力学と構造力学等の知識を要し、その十分な復習と理解が要求される。 構造計算とプログラム作成のため、授業にはプログラム電卓 (PC) を必携すること。					
教科書および参考書： 教科書：基礎からの鉄骨構造 (森北出版) 鉄筋コンクリート構造入門 (鹿島出版会)					
授業の概要と予定：前期					AL のレベル
第 1 回：合成梁の設計 (力の伝達機構の概説と例題 その 1)					
第 2 回：合成梁の設計 (力の伝達機構の概説と例題 その 2)					
第 3 回：合成梁の設計 (RC スラブと鉄骨による合成梁各部位に生ずる応力度と演習)					
第 4 回：合成梁の設計 (RC スラブと鉄骨による合成梁各部位に生ずる応力度と演習)					
第 5 回：鉄骨柱脚の設計 (ベースプレート柱脚の設計 その 1)					
第 6 回：鉄骨柱脚の設計 (ベースプレート柱脚の設計 その 2)					
第 7 回：鉄骨柱脚の設計 (ベースプレート柱脚の設計 その 3)					
第 8 回：後期中間試験					
第 9 回：SRC 構造 梁の設計 - 1					
第 10 回：SRC 構造 梁の設計 - 2					
第 11 回：SRC 構造 梁の設計 - 3					
第 12 回：SRC 構造 柱の設計 - 1					
第 13 回：SRC 構造 柱の設計 - 2					
第 14 回：SRC 構造 柱の設計 - 3					
後期期末試験					
第 15 回：SRC 構造 柱梁接合部の設計					

評価（ループリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
	鉄骨が主たる構造における合成構造の設計で8割程度の正答ができること	鉄骨が主たる構造における合成構造の設計で6割程度の正答ができること	鉄骨が主たる構造における合成構造の設計で6割程度の正答ができないこと
	SRC 構造の設計の設計で8割程度の正答ができること	SRC 構造の設計の設計で6割程度の正答ができること	SRC 構造の設計の設計で6割程度の正答ができない